

(平成23年度空き家利活用調査事業)

空き家利活用 シンポジウム

地域資源としての空き家利活用を考える

平成23年11月12日(土) 午後1時30分~4時

となみ散居村ミュージアム 情報館研修室

入場無料

散居村における空き家の増加は、地域社会の存続に大きな危機をもたらすことが危惧され、その対策が喫緊の課題です。

課題解決には、空き家の実態と地域の将来像を明らかにし、空き家バンク設立など空き家の利活用と定住人口増加策を確立することが求められています。市が先に策定した観光戦略プランでは、「散居村、チューリップ、歴史文化など地域の宝を磨き、その魅力を広く発掘・発信することで、交流・定住人口増を目指す」としており、その具体化が期待されています。

空き家利活用を考えるシンポジウムでは、空き家の実態と将来予想される問題点について共通認識を醸成し、空き家バンク設立とその運営を行うNPOなどの組織づくり、地域の魅力発信の方策などを考え、具体的な実行へとつなげます。

● 開会/午後1時30分(開場/午後零時半)

● 主催者挨拶

● **事例報告**

〈報告者〉

● 空き家調査と利活用策検討を進める NPO 法人砺波土蔵の会理事長 尾田 武雄

● 空き家を活用した移住交流滞在施設を運営する NPO 法人水辺のまち新湊専務理事 二口 紀代人氏

● 能登の魅力を発信する能登半島全国発信プロジェクト 安江 雪菜氏

● **パネルディスカッション**

「**砺波の元気は空き家利活用から**」

〈パネリスト〉

● 能登半島全国発信プロジェクト 安江 雪菜氏

● NPO 法人水辺のまち新湊専務理事 二口 紀代人氏

● NPO 法人砺波土蔵の会理事長 尾田 武雄

● NPO 法人砺波土蔵の会会員 長谷川 徹

〈コーディネーター〉

● 太田地区区長会長 安念 幹倫

■主催/特定非営利活動法人 砺波土蔵の会・砺波市

■問い合わせ先/となみ散居村ミュージアム内 TEL: 0763-34-7180

〒939-1362 砺波市太郎丸80番地 FAX(0763)34-7182 E-mail dozou@tonamino.jp

空き家 利活用シンポジウム

地域資源としての空き家利活用を考える

【パネリスト】 能登半島全国発信プロジェクト

安江 雪菜 (やすえ ゆきな)

計画情報研究所(金沢市)取締役。都市及び地域のまちづくり、交通計画、各種事業化支援などの業務に携わる。金沢の町家保存活動、能登への移住促進事業などにも詳しい。

金沢大学非常勤講師

いしかわ里山創成ファンド事業審査委員

七尾市産業化資源事業化可能性調査事業審査員



【パネリスト】 NPO 法人水辺のまち新湊 専務理事

二口 紀代人 (ふたくち きよと)

1950年、射水市(旧新湊市)生まれ。

射水市での生活を体験する移住交流滞在施設としての新湊内川沿い空き家3棟や、「川の駅新湊」、新湊勤労青少年ホームの管理運営を担う。射水市副参事・都市計画課長、会計管理者等歴任。



【パネリスト】 NPO 法人砺波土蔵の会 理事長

尾田 武雄 (おだ たけお)

1948年、砺波市生まれ。

日本石仏協会理事

砺波市文化財審議委員

砺波市空き家利活用調査研究委員会委員長

著書 「とやまの石仏たち」など

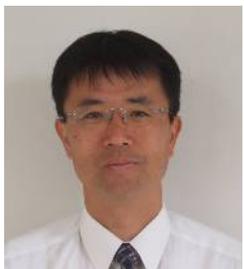


【パネリスト】 NPO 法人砺波土蔵の会 会員

長谷川 徹 (はせがわ とおる)

1963年、砺波市生まれ。

「柳瀬地区空き家対策」調査員。砺波市景観まちづくり研究会員。とやま起業未来塾6期生。散居村(柳瀬地区)空き家活用プランを策定し、その実現に向け活動中。



【コーディネーター】 太田地区区長会長

安念 幹倫 (あんねん みきのり)

1957年、砺波市生まれ。

砺波市景観まちづくり研究会員

砺波散居村地域研究所所員

富山県埋蔵文化センター所長代理



能登半島全国発信プロジェクト (HP「能登スタイル」運営)

能登半島地震で被災した能登半島の産業復興や活性化を目的に、官民合同で取り組んでいる情報発信プロジェクト。財団法人石川県産業創出支援機構が事業主体となり、ウェブサイト「能登スタイル」などを通じて、観光情報だけでなく能登の暮らし・文化などを総合的に発信。特産品販売や観光客誘致にも成果を上げている。

NPO法人 水辺のまち新湊

旧新湊市中心市街地活性化を目的とした新湊商工会議所の「新湊TMO構想」を踏まえ、「豊かで潤いのあるまちづくり、交流を育むまちづくり」を目指して、内川から海王丸、新湊大橋をつなぐ一体的な水辺を軸としたまちづくりを進めるため、平成17年に設立された。

川の駅新湊の管理やそれと連動した内川周辺でのイベント実施、移住交流滞在施設の運営管理などを行っている。

NPO法人 砺波土蔵の会

砺波を愛し、歴史・民俗・考古学など自ら生涯学習を実践することを目的に発足、平成21年11月NPO法人として設立。現在、楽しく学ぶ「楽習」を続けている。「住みたい街」「訪れたい街」砺波づくりを目指し空き家対策、民泊事業にも取り組んでいる。